



学園花の村機関紙第85号

2015年6月3日(水)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

F 436-0079

〒337-1065

常識を疑え！

池守 幸一

巷間、医療の常識とされている「早期発見、早期治療」という標語に一寸違うんじゃないかと異を唱えたい。病気の発生をいち早く見付ける健康診断に多大な社会的コストを掛けるより、そもそも病気にかからない体、病気にかかりにくい体をつくること、そこに医療政策の重点を置く方がはるかに大事だと特筆大書したいのです。

「健康診断と早期発見、早期治療」の仕掛け人は、まず間違いなく製薬会社。「早期治療」とは投薬のことで、製薬会社の儲けのための仕組みと断じてよい。日本の投薬量はメチャクチャ多いと読んだことがあります。たぶん国の医療政策の決定過程に製薬会社が絡んでいて、さながら、あの原子力ムラのように医療ムラというものがあるのだろう。

病気にならない、病気にかかりにくい、何

によってもたらされるか。それは何を食べるか、どう生活するかに決まっています。医療、医学の本流を予防医学に置くべきです。断じて病気を早く見付けて、早く直すではない。

「何を食べるか」とは簡単なこと、野菜を食べることです。できればその野菜は有機野菜がいい。スーパーに並ぶ野菜より自分で育てた有機の無農薬野菜がいい。有機物たっぷりの畑で育った野菜なら、スーパーの手取り早く化学肥料を撒いて作った土からとれた野菜よりミネラルやビタミンの含量が多いはず。ここは大事なので成分分析をして正確を期したいところ。なんてったって有機野菜はおいしい、味が濃い。念のため付言すれば有機野菜の真骨頂は環境を汚さないことにあり、です。多くの人はスーパーの野菜しか食べられないので気の毒です。

「どう生活するか」は健康長寿日本一を誇る静岡県が、平成11年から11年かけて高齢者一人を調査して、運動、食、社会参加の3つが大事と結論を出しました。この3つに一番添うのが我田引水ではないけれど、農業(あるいは農)。元気な高齢者は農業をやっている人に多いよう

に感じられていますが、ここは統計的にも当たっておきたいところ。

いま日本では世界一のスピードで高齢化が進んでいます。高齢化が進むほど医療費はかさむ。現在の国民医療費は40兆円、この先も青天井で増え続けます。

ここで提案したい処方箋が、何を食べるか、どう生活するかと言う事です。国に医療政策の転換を願うと共に、個人にもライフスタイルの転換を呼びかけたい。農業であれ、農であれ農業をやろうと言うことです。「みんなでやろう小さい農業」です。地方で生活する人は、右を見ても左を見ても耕作放棄畑、荒廃農地だらけなので、とりわけその条件に恵まれています。

病気にならない体を作ることをめざして、まず自らが鋤を握る、そういうスタイルの人が広がるように多少の努力をする、市民皆農・国民皆農を願う・農業をする人、農をする人の健康寿命の長いことを身を以て実証する、花の村の存在理由は正にここにありと思えます。